

◎多世代交流の仕組みづくり事業

10月4日（木）に、実谷区民館で三育学院大学の教員や学生による多世代交流拠点づくり事業が行われました。

この事業は、多世代が気軽に集い、地域で支えあう交流の場づくりに取り組むものです。

当日は、なつかしいオモチャやハーブを使った健康づくり教室が開催され、介護予防サポーターや地域の方たちなど、23名の参加をいただきました。



▲三育学院大学 保健師学生による吹き戻しによるトレーニング風景



▲ハーブ療法士 竹上先生によるハーブの効能の説明風景

学生による健康教室では、若さ溢れる指導に笑顔がこぼれ、また竹上先生のハーブ教室では、庭先や畑の雑草が美味しい食材になることやハーブの効能を、分かりやすく教えていただきました。

そして、オリーブ茶やミント茶などの「利きハーブ茶」をしながら、楽しい時間を過ごしました。

こうした日頃からの交流の輪を広げていくことが、地域づくりや災害時の対応につながります。

今後も、三育学院大学をはじめ多様な方々と連携しながら、全ての世代が住み慣れた地域で、生きがいを持ち生活できるよう、気軽に集える交流拠点づくりに取り組んでまいります。



▲竹上先生と談笑する参加者

◎多世代交流の仕組みづくり事業

12月6日（木）に、実谷区民館で三育学院大学と協働し、多世代交流の仕組みづくり事業「第2回 寄茶場 in 実谷&七本」を実施しました。

今回は、「インフルエンザ予防、大丈夫？あなたの手洗い」をテーマとした講話とオリーブの葉クッキー&ハーブティのお茶会を三育学院大学 看護学部 教員、管理栄養士と共に行い、地域住民の方を中心に23名の方と楽しく過ごしました。



▲三育学院大学 教員による手洗いの講話風景



▲手洗いチェッカーで確認している風景

お茶会では、三育学院大学 管理栄養士が作成したオリーブの葉が入り、バター、白ごま油、ココナツオイルなど様々な油を使用したオリーブクッキーと抗菌作用のあるハーブティを試食しながら談笑しました。

皆さん、主体的に次回の交流会の内容やどうしたら交流会が発展していくか参加者同士でアイデアを出し合う姿が伺えました。

今後も地域住民が気軽に集える「寄茶場」を住民の方と一緒に盛り上げていきます。



▲参加者同士、談笑している風景

◎多世代交流の仕組みづくり事業

1月27日(日)に、実谷区民館で地域住民、三育学院大学と一緒に、多世代交流の仕組みづくり事業「第3回 寄茶場 in 実谷&七本」を実施しました。

今回は、「みんなでわいわい！白玉団子作り」をテーマに子どもから大人まで40名の方と一緒に交流しながら白玉団子を作りました。特に今回は、子どもたちの参加も多く、賑わった会となりました。



▲子どもたちと談笑する風景



▲大人の声掛けのもと一緒に白玉をこねる風景

白玉団子作りでは、大人の声掛けのもと子ども達と一緒にこねたり、丸めたり、茹でたりと終始笑いながら楽しそうに作りました。

子どもたちも「楽しかった」「またやりたい」と話す姿や大人も子どもたちのパワーを貰い、いきいきと過ごすことが出来ました。

今後も子どもも大人も交流できる「寄茶場」を地域住民の方を中心に考えていきたいと思えます。



▲白玉団子を茹でている風景

◎特産品の開発事業

町では、生涯活躍のまち・おんじゅく（御宿版 CCRC）構想の取組みとして、オリーブ等を活用した6次産業化による地域活性化と人材育成を実施しています。オリーブの植栽については、土作りや栽培管理、販売方法までのビジョンが必要であるため講習会を実施しました。

実施日：平成30年10月18日（木）

講師：株式会社オリーブアカデミー
代表取締役 古賀 直樹

場所：千葉県農林総合研究センター
育種研究所（長生村）



良質なオリーブの苗木の説明

講習内容：良質な苗木の選定について
土作りや栽培の管理について
販売までの仕組みづくりについて

オリーブ栽培は、実を成らし収穫するまでにはかなりの時間がかかるので、その間にモチベーションが下がってしまうことがある。そうならないためには仕組みづくりが重要と説明され、実が成るまでじっと待つのではなく、しっかりとした戦略的プランづくりが必要であることが解りました。



土作りの説明

初めて、教わることばかりで参加者は、オリーブ栽培に向けて、熱心に多くの質問などをしていました。

土作りのコツや栽培の方法、また、販路の確保等について、今回の講習会では、次に繋がる講習会になりました。

今後の産業の発展に期待できると考えてます。

◎特産品の開発事業

地域資源を活かした販わいの創出を目指すため、“担い手”と行政が連携して、健康づくりや産業の発展に繋がる「オリーブ」栽培に取組み、住民が心豊かに暮らすことのできる持続可能なまちづくりを目的とするためオリーブ講習会を実施し、28名が参加しました。

実施日：平成30年11月27日（火）

講師：株式会社オリーブアカデミー
代表取締役 古賀 直樹

場所：御宿町役場2階大会議室

講習内容：①オリーブの葉の力について
②土づくり
③オリーブ事業について
④苗木の植付け方



オリーブ栽培は、実を成らし収穫するまでにはかなりの時間がかかるので、収益に繋がる手法を考えることが必要であり、苗木を植栽して1年後から収益を上げるためのお話がありました。

オリーブは、幅広く可能性を秘めており、特に葉を活用することによって地域が活発になり期待できる植物ということが分かりました。

土づくりはバーク堆肥（杉、ヒノキの樹脂）石灰等を配合する。オリーブの植栽で重要なことは、しっかりとした苗木を選定して植えることがポイントであるとのことでした。

■地域資源「賑わい」の創出のために

農家、宿泊業者、飲食業者などのほか、地域住民が担い手となり産業連携を図りオリーブの生産から利活用に取り組めます。



◎特産品の開発事業

町では、生涯活躍のまち・おんじゅく（御宿版 CCRC）構想の取組みの一つとして、オリーブ等を活用した地域活性化と人材育成に向けて事業を進めています。オリーブにつきましては、これから町内全域での植栽を考え、農家、宿泊業者、飲食業者などのほか、地域住民が協同の取組みによる賑わいのあるまちづくりを目的としています。今回、気候温暖な立地条件を活かし先進的な取組みが展開されている二宮町の視察研修を実施しました。

実施日：平成 31 年 1 月 15 日（火）

視察先：神奈川県二宮町

講師：株式会社ユニバーサル農場

内容：二宮町オリーブ事業について
農場のオリーブ栽培について

- ・土づくり（施肥）
- ・剪定作業
- ・オリーブの花と実
- ・搾油
- ・オリーブオイル
- ・害虫被害等の対策



オリーブ栽培についての説明

オリーブ栽培は日照量が多いほど生育が良く、土壌は比較的乾燥を好むとされていますが、良好な生育、果実肥大のためには年間 1000 mm 程度の適度な降水が必要であることが分かりました。



オリーブ圃場での説明

【圃場の条件】

根の土壌通気性を強く求められるので排水良好な圃場が必要であり、日中の半分しか日があたらない場所や排水不良の土壌は好ましくない。根がもろく倒れやすいので風当たりが強いところはなるべく避け、支柱でしっかり固定する。

◎特色ある教育プログラム事業

(1)小学生週末英語教室

- ・実施日 毎週土曜日 午後
- ・場 所 公民館
- ・参加費 教材代 年間 1,000 円
- ・



平成 32 年度から小学校 5、6 年生では正式な教科として外国語（英語）が導入されます。

町教育委員会では、子どもたちが英語に慣れ親しみ、外国語（英語）の授業にスムーズに対応できるよう、小学校 4 年生を対象に市進学院の現役講師による週末英語教室を開講しました。29 人の児童が参加しており、「子どもたちが英語を好きになるよう楽しく！」を目標にし、ネイティブの先生を呼んでハロウィンやクリスマスなどのイベントも 3 回実施しました。

また、自宅でも英語に触れる機会をつくるため、パソコンやタブレットを使って利用できるネット教材も提供されています。

回を重ねるごとに教室では積極的に英語で会話する児童の姿が見られました。

(2)中学生週末学習塾

- ・実施日 毎週土曜日 午前
- ・場 所 役場保健センター
- ・参加費 教材代 年間 1,000 円

町教育委員会では、御宿中学校 3 年生を対象に、希望進路の実現に向け、入試に対応した基礎学力を身に付けるため、市進学院講師による週末御宿学習塾を開講しています。

20 名の生徒が参加しており、特に積み重ねが大切な教科とされている英語と数学を学習しています。現役講師が少人数クラスで丁寧に指導してくれるため、参加生徒からは「分かりやすかった。」「良かった。」「成績があがった。」との声が聞かれました。

1 1 月からはお弁当持参での 1 日学習塾を 5 日開講しましたが、多くの生徒が参加し積極的に学習する姿勢が見られました。



◎移住・交流促進事業

【都市住民を対象とした移住定住促進事業】

移住に対する幅広い要望や問題点等を把握するため、都市住民ウェブアンケート調査を実施し、そのアンケートで「御宿町への移住に大変関心がある」と回答した方の中から、東京都中央区での都市住民グループディスカッション及び御宿町でのワークショップを開催しました。

①グループディスカッション

実施日：2018年9月29日（土）

場 所：人形町フィールドワークセンター（東京都中央区）

実施内容：事前に実施したウェブアンケート「CCRC 構想に関心があり」、「移住先として御宿町に関心がある」と回答した者のうち20名を選出し（1名欠席し、当日の参加は19名）、グループディスカッションを行いました。

まずは各々の現在の働き方やライフスタイルについて話し合った後、御宿町の概要、暮らし、生活利便施設の状況、移住施策などを説明したうえで、御宿町に対するイメージ、移住した場合に御宿町に期待することや不安な部分について、都市住民の方たちが感じた様々な意見が出されました。具体的には、「移住への関心は高いが、家族（特に子や介護の必要な人）の都合や仕事に関する解消がされない限り難しい」や「移住をするためには現在の職場に通える又は近隣に仕事が必要である」、「町のアピールポイントを明確にすべき」、「高齢者には概ね好評だが、現役で働いている世代はターゲット外という感じがある」などの意見がありました。



意見交換の様子

②ワークショップ（御宿町体験ツアー）

実施日：2018年10月13日（土）

場 所：御宿町

実施内容：前回ディスカッションに参加した19名を対象に、ツアー形式で御宿町でのワークショップを行いました。実際に御宿町を見て感じていただくため、海岸地域、まちなか、御宿台西武グリーンタウンの街並みをバスで周遊しながら主な生活利便施設、公共施設などを説明しました。当日は御宿台秋祭りも開催されていたため、区役員のご協力もいただきながら、移住者が実際に感じている御宿台区での暮らしぶり、コミュニティの状況などを説明しました。

最後に公民館で、実際に御宿町をみたうえで感じたことをディスカッションしました。意見については、現在取りまとめ中ですが、一部の参加者からは、「街がコンパクトと聞いていたが、実際に来るとさらにコンパクトに生活利便施設がまとまっていた」や「御宿町で暮らしたときの生活費が実際どのくらいかかるのかモデルケースがほしい」という声がありました。



意見交換の様子

今回の結果を踏まえ、より効果的な移住定住施策の実施に取り組んでいきます。